

公民科（倫理）シラバス

倫理	単位数	3単位	学科	普通	学年	第3学年
----	-----	-----	----	----	----	------

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. 地歴で学習した歴史的・社会的事象を、文化や思想の観点から説明できる。</p> <p>2. 現代社会における諸問題を解決する手がかりとして、学習した思想を活用した考えを述べることができる。</p> <p>3. 偏りのない幅広い教養を身につけ、身の回りの事象や個人としての生き方・あり方に関心をもち、良識のある行動を実践できる。</p>
使用教科書・副教材等	清水書院「新 倫理」，とうほう「アプローチ倫理資料」，啓隆社「倫理ノート」

2 学習指導計画及び評価方法等

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)	考査	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
前期	4	第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学	先哲の思想を理解し、自らの生き方に重ねて理解することができる。	普段の生活と関係させながら、適切な例を用いて説明する。	前期 中間 考査	先哲が考え実践したことが普遍的な意義をもつものとして、自分自身に深く関わるものとして関心をもち、学ぼうとする意欲・態度をもっている。	ソクラテスやプラトン、アリストテレスまたヘレニズム期の思想家の生涯と思想を通して、その意味について考え、主体的かつ客観的に判断することができる。	古代ギリシャにおけるプラトン、アリストテレス、ストア等の原典或いはその関連書物を読み、人間の生き方や在り方について、自分の考えを話し、文章に書くことができる。	ロゴス、テオリア、無知の知、アレテー、徳、エロース、中庸、正義、コスモポリタニズム等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。
	5	第2章 人生における宗教 第3章 人生の知恵	宗教の存在意義を考え、世界の多くで宗教が信仰されている理由を理解する。	複数の宗教を比較し、共通点や相違点を強調して、宗教を学ぶ意味を伝える。		一神教における人間の生き方や在り方について、自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして、関心をもち、学ぼうとする意欲・態度をもっている。	基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、イエス、パウロ、アウグスティヌス、トマス、ムハンマド、などの生涯と思想を通して、その意味について考え判断することができる。	『旧約聖書』『新約聖書』『クルアーン』など原典を読んだり、キリスト教やイスラームがテーマになったり、またそれに触れた小説や芸術に接し、認識を深められる。	一神教、モーセ、律法、メシア、救い、福音、神の国、原罪、赦し、アガペー、隣人愛、教会、パウロ、回心、贖罪、恩寵、教父、アッラー、六信五行等の概念について理解できる。
	6	第3章 人生の知恵	神のような超越的なものではなく、現実の中で現実にあるべき姿を理解する。	西洋と東洋の違いを強調しつつ、それが「優劣」ではなく「特徴」であることを伝える。		中国における人間の生き方や在り方について、よく生きることを目指す教えであり、自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして関心をもち、学ぼうとする。	基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、儒家や道家の教え、またそれぞれに属する代表的思想家の生涯と思想を通して、その意味について考え正しい判断をもつことができる。	『論語』、また孟子、老子や荘子などの原典やその解説書を読んだり、古代中国の詩や小説に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。	仁、礼、王道、霸道、理気二元論、性即理、心即理、道、無為自然、柔弱謙下、万物斉同等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。
	7	第3編 現代社会と倫理 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳	時代の特徴と思想の関係性に注目できる。	これまでの学習やこれからの学習を踏まえ、思想と社会の様子に大きな関係性があることを強調する。	前期 期末 考査	ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、それらが現代に生きる私たちの芸術や、キリスト教信仰に興味や関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。	ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想が現在にも有効であることを理解し、それを踏まえて現代的な課題について客観的で公正な判断をくだすことができる。	ルターやカルヴァンの著作、モンテーニュやパスカルの著作にふれ、さらに同時代資料或いは後世の研究を参考にし、その特徴を文章にまとめることができる。	ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、基本的な知識理解をもち、それを踏まえて自己自身の考え方を表現し文章にまとめることができる。
	8	第2節 自然や科学技術と人間のかかわり	科学的な考え方は何かを理解し、客観性のある態度を身につける。	「科学的」の意味を理解させ、授業がすべて科学であることを強調する。		近代科学の方法の確立とその発展及び科学の原理的考察に関して、デカルトやベーコンの思想に関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。	天動説から地動説へ、またデカルト、ベーコンの思想を通して科学方法論の特徴を客観的に考えその意味について適切に判断することができる。	デカルトやベーコンの著作や同時代の諸資料、情報メディアを介した資料を参考に、その成果や特徴などをまとめることができる。	宗教裁判、経験論、方法的懐疑、物心二元論等々について正確な知識と理解をもち、文章を書くことができる。帰納法、演繹法の説明ができる。
	9	第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福	民主主義社会の本質やあり方を理解する。	政経での学習内容を踏まえた授業を展開する。		近代社会における個人と国家や社会の関係について、関心をもち探求する意欲や態度をもっている。	社会契約論や人権思想がどのように考えたか歴史的な状況を踏まえて考えることができる。	ホッブズ、ロック、ルソーなどの著作を読み、その成果や特徴などをまとめ、文章に書くことができる。	自然状態、契約、自然法、抵抗権について正しく認識し、文章にまとめることができる。

後期	10	第5節 個人と社会のかかわり  第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛	個としてのあり方を理解できる。  日本文化の成り立ちを、外来文化との関係で理解できる。	普段の生活と重ね合わせた例を用いて説明する。  身近な例を紹介しながら、日本文化の特徴を強調する。	後期中間考査	実存主義について、関心をもち、探求する意欲と態度をもっている。	実存主義は私たちにも深く関わる思想であることを認識できる。	歴史資料に拠りながら考え、その結果について文章に書くことができる。	実存主義者キルケゴール、ニーチェ、ヤスパース、さらにハイデガー、サルトルについて正しく理解できる。
	11	第3節 儒教の日本化 第4節 日本文化と国学 第5節 近世庶民の思想 第6節 西洋近代思想の受容	外来思想としての儒教や西洋思想が、日本社会に合わせて、変化している様子を理解できる。	時代によって、日本に影響を与えた外来文化が異なることに注目させる。		近代日本の思想について、幕末から明治維新、明治期、大正から昭和、太平洋戦争にいたる昭和期のそれぞれの特徴とその代表的な思想について興味や関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。	幕末から明治大正昭和の時代認識を踏まえて、各時代の代表的な思想や思想家について考察し、その歴史的意味について正しく判断することができる。	幕末の洋学、象山、松陰、論吉、兆民、鑑三、秋水、漱石、西田、和辻等の著作などを読み、またその他諸資料を参考にして考え、文章に書くことができる。	幕末の洋学、松陰らの時代の先駆者の思想と行動、福沢諭吉と啓蒙思想、中江兆民の自由民権思想、内村鑑三に代表されるキリスト教信仰、漱石に代表される明治の文学者の近代的自我との格闘、西田幾多郎や和辻哲郎の独自の思想等、その基本的概念を正しく理解し、文章を書くことができる。
	12	問題演習	これまで学習した事柄を活用して問題を解くことができる。	予習を前提とした問題演習であることを事前に伝え、実行する。		自宅学習としての予習を行っている。	正解を出すための理由を合理的に説明できる。	問題を解くための根拠としての資料を適切に用いることができる。	たしかな根拠を理由として正解を導き出せる。
	1	問題演習	これまで学習した事柄を活用して問題を解くことができる。	予習を前提とした問題演習であることを事前に伝え、実行する。	自宅学習としての予習を行っている。	正解を出すための理由を合理的に説明できる。	問題を解くための根拠としての資料を適切に用いることができる。	たしかな根拠を理由として正解を導き出せる。	
<p>評価方法 : 前・後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査、発言の様子、グループ活動の様子、課題の提出状況による総合評価。</li> <li>・ 評価は、社会的事象への関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点別に行う。なお、「知識・理解」については考査評価から、「意欲・関心・態度」については授業での様子や発問に対する返答等から行い、「資料・活用の技能」、「思考・判断・表現」は小テストや授業での様子から評価する。</li> </ul>									